



兵庫教育大学
大学院同窓会

会報

第二九号

平成十七年三月三十一日発行

兵庫教育大学大学院
同窓会 広報部

学長就任に当たって

兵庫教育大学学長

梶田 叡 一



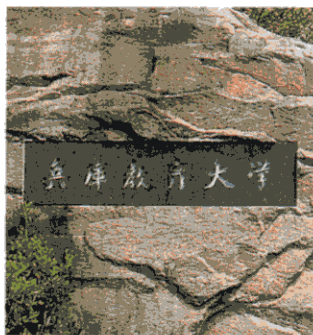
2004年(平成16年)12月、兵庫教育大学の第6代学長に就任しました。大阪大学と京都大学で17年間教鞭をとり(若い時には国立教育研究所にも11年間在職しました)、京都ノートルダム女子大学の学長を6年間余勤めたことです。外部からの学長招聘という事で、一部では話題となりました。こうした「異例の」学長人事を、前学長の中沢先生を初めとする教職員の方々が思い立たれた背景には、創立以来26年間が経過した現在、もう一度、

兵庫教育大学創立当初の夢と意気込みを復活させ、新たな大学創りに取り組まなければ、という熱い思いがあったものと受け止めています。私自身も「兵教ルネッサンス」という言葉を掲げ、皆さんの先頭に立って、大学改革の取り組みを進めていくつもりでいます。

現在既に、教員組織と事務局組織を抜本的に改組すべく、勝野副学長、川本副学長を中心に、検討がスタートしています。優れた教員を養成すると同時に現職教員の教育的力量の向上を図る教育研修機関として、さらには世界最先端の教育諸科学の研究機関として、合理的効率的に動けるようにするための組織改革です。これと同時に、カリキュラム構成や講義・演習等の内容の再吟味も必要な時期に来ております。さらには、現在中央教育審議会で議論されている教員のための専門職大学院の設置に向けての準備も進めていかねばなりません。大学院博士課程の連合大学院についても、抜本的な再検討が必要になっていいると思われま

課題との取り組みを着実な形で進めながら、今後20年後、50年後の新たな兵庫教育大学の建設に向けてのビジョンを、関係者の方々皆の共通の願いとして築いていきたいと考えています。

同窓生の皆さんにも、こうした兵庫教育大学の抜本的改革の動きを暖かい目で見守って頂き、御支援御協力頂きたいと願っています。また母校のこうした動きに呼応して、同窓生の皆さんが日本の教育の発展のために一層の御尽力を頂くことを願っていますし、そのために必要なことがあれば、何なりと兵庫教育大学の方に声を掛けて頂きたく思います。兵庫教育大学が、もともと、日本の教育界の全体としての向上発展のために創立された特別な大学院大学であるということをお互いに思い起こしたい、と念願する次第です。



H y o k y o n e t を

大きく育てよう

大学院同窓会理事（研究部）

菅野 恭介

H y o k y o n e t が6月にスタートして半年が過ぎました。今回は、H y o k y o n e t の宣伝です。H y o k y o n e t は、兵庫教育大学に関わりのある人を全部巻き込んで巨大な教育情報ネットワークを作ろうというねらいで作られています。自分から情報や質問を発信したり、他のメンバーと議論をしたりすることができます。参加型のホームページです。日々の教育実践で生じた疑問の解決や、興味のある研究会の情報の検索にこれほど役に立つ可能性のあるページはありません。修士生全員がこのページを日常的に活用するようになれば、一つの質問や意見に対して、5000人以上の先生が考えてくれるわけですから、何でも解決できるすごいページになるはず

です。しかし、現在の活用状況を見ており

ますと、まだまだ活発に活用されているとはいえない状態です。参加型のページですから、参加者が少なければ、本来の機能を十分に果たすことができません。同窓会の皆様の中にも、まだH y o k y o n e t をご覧になつたことがない方がいらっしゃるのではないかと思います。そこで、まだご覧になつていない方は、まずH y o k y o n e t を一度見てください。そして、何でも結構ですので、気軽に情報を交換できる場として使ってみてください。例えば、メンバーページである「かすたねつと」に入ると、各コースや地域の掲示板がありますから、ここに自分の近況を書いてみてください。大学院を修了して、一旦離ればなれになると、毎日忙しくて、当時のメンバーで集まる機会はなかなかありません。でも、H y o k y o n e t をうまく利用する

と、自宅に居ながらにして、かつての仲間との交流ができるわけです。

さて、H y o k y o n e t の実際の使い方ですが、まず、パソコンをインターネットにつないで、「H y o k y o n e t」を開きます。どうやって開くかわからない方は「Yahoo」や「Google」で、「H y o k y o n e t」を検索してください。そうすると、最初のページに「教育Q&A」や「同窓会情報」など、たくさんページの入り口が表示されます。その中に「かすたねつと」という名前の入り口があります。ここが、同窓会メンバーだけの交流ページです。したがって、ここに入ろうとすると、メンバー確認のためにユーザーIDとパスワードを要求されます。「こんな聞いてないよ」と思われる方がおられるかも知れませんが、これは、昨年6月にネットの運用を始めるときに、住所が判明している同窓生全員に大型の封筒で連絡されています。封筒が見つからなくても、ユーザーIDは、ご自分の大学院時代の番号ですから何とかあります。大学院時代の資料を引っ張り出してみ

ると、たぶんどこかにこの番号が書いてあるはずですよ。ちなみに私は「m95055g」でした。でもパスワードはどうにもなりませんので、封筒を探さか、「パスワード再発行」のボタンを押してパスワードを取り直してください。何とか「かすたねつと」に入れたら、次のようなことをして遊んでください。

①「兵教大なかまひろば」に入つて遊ぶ。

(ア) 自分のコースの掲示板に近況や、前に書き込まれている内容に対する意見などを書き込む。

(イ) 各地域、都道府県の掲示板に活動情報を書き込む。特に地区の代表の方は、どんどん書き込んでください。

②「課題解決コーナー」に質問を書いてみる。

③「利用者登録情報の参照と修正」で、自分の情報を確認し、訂正する。この情報で、同窓会等が送付されるので、変更があれば必ず訂正してください。

以上のようなことをすると、このネットワークを随分身近に感じることができ

そうならば、あなたも立派なHyokyonet仲間です。

Hyokyonetは、大学の専門職員の小山さんが中心になって作られており、同窓会ページの運営もすべてお任せしています。とても使いやすいようにうまく作られているなど感心しています。生まれて間もないこのページは、まだまだ子どもですが将来性は抜群です。利用がどんどん増えて、ネットワークが広がれば、私たちが兵教大で直接学んだ2年間がさらに意義深いものになります。同窓生のみならず、大切に育てていただいて、数年後に、教育界を代表する情報ネットワークに成長してほしいと願っています。

Hyokyonetに関するお問い合わせは、以下の兵庫教育大学教育実践ネットワーク運営室までお願いします。

兵庫教育大学教育実践ネットワーク
運営室

電話 0795-44-2156

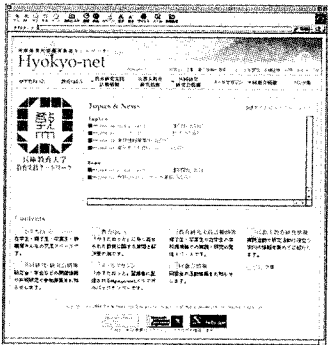
FAX 0795-44-2009

E-Mail office-hyokyonet@office.hyogo-u.ac.jp

情報ネットワーク

ホームページでは、在学生・修生・卒業生・教職員のための交流スペース「かすたねっと」をはじめ、「教育Q&A」、「教育研究実践活動情報」、「兵教大教育研究情報」、「共同研究・研究会情報」、「同窓会活動情報」などのコーナーを設け、教育実践にかかわるコンテンツを発信します。

将来は、ネットワークの運営を通して実践情報や課題解決情報などのデータベースを構築し、ホームページ上での公開をめざしています。



<http://castanet.office.hyogo-u.ac.jp/>

岩手支部の活動の様子

大学院同窓会理事

岩手支部 西前 弘幸

岩手支部は、平成六年に結成され、本年度結成十一年目を迎えました。

その短い歴史の中で、平成八年度には全国から約八十名の会員の方々にご参加をいただき、第十六回兵庫教育大学大学院同窓会岩手大会を開催させていただきました。その節はたいへんお世話になりました。ありがとうございました。

さて、岩手支部の活動の特徴としては、ここ二回程度上越教育大学大学院の同窓会と共催で研修会を実施していることです。

実は、岩手県から大学院に派遣を始めたのは、兵庫教育大学が始まりで昭和五十六年度からです。翌年、昭和五十七年度からは上越教育大学にも派遣が始まりました。そして、しばらくはこの二大学に派遣する状態がつづきました（現在は、岩手大学等もありま

す）。その縁で、合同で研修会を実施しております。

内容としては、盛岡大学学長（元上越教育大学学長）加藤章先生の講演、両大学院修了生による研究発表及び交流会、そして、懇親会となっております。

岩手支部の会員数は現在七十数名を数えております。また、支部長の石亀紀男先生は盛岡大学の教授に就任されるなど多くの方々が岩手の教育の中心となり活躍されております。

ただし、年々厳しさを増す職務内容、そして、四国四県に匹敵する県土の広さ等で運営するにも会議が開催できず、支部の活動が滞っているのも実態です。今後は、若手の会員を中心に、小さな会合を中心に盛り上げていけたらと考えております。

兵庫教育大学大学院同窓会山口大会記念講演 演題「松下村塾の教育」

講師 山口県教育会 会長
河村 太市 先生

はじめに吉田松陰の人柄を知るために、次の三点を挙げられた。

一、人間観

・性善説
人は生まれつき持っている性質は善である。

・個性・才能

人には誰でも一、二の才能を持っている。人が大成するとき、それを個人の全体としての持ち味まで高めることができる。

二、人生観

・社会的弱者への眼差し

志を持つことが、万事の源である。

・志

志が強いと、気は湧いてくる。

・誠

誠は人の内から湧いてくる人の生き方である。

・至誠

誠+志+気の三位一体である。

では、松下村塾はどのような塾であったのでしょうか。

松陰が松下村塾で子弟の教育に当たったのは安政四年十一月からの一年一ヶ月で、八畳一間から始まり、半年後には増築している。塾生は約八十人くらいで、十分八割強、

医・僧・町人が一割強でした。

では松下村塾ではどのような教育がされたのでしょうか。

一、俊傑の学、時務の学

学問とは、博学か専門の学を言い、雑学は学問ではない。博学とは、天下の書を「通習」し、「精を究」め「要」を把握するものである。しかし、松陰の学問観は、博学専門の学も、それが俊傑の学、時務の学でなければならぬと言っています。俊傑というのは時務を知ることと言っています。ここでのいう時務の学とは、単に天下の事情、世界の形成を明らかにするに止まるものではなく、それを明らかにすることによって、今やるべきことが何であるかを引き出すものでなければならぬと言っています。

二、個別指導

個性とは、生まれながら持っている資質と、先後獲得した資質とがあります。松陰は前者を「真骨頭」と言っています。学問は、まずは己の真骨頭が何であるかを求得することに始まると言っています。

松陰はこの真骨頭を見抜くために、度々実験をしています。例えば門下生の市之進にたいして

ある日、習字を十枚書くつもりで、二枚しか書いていないとき、松陰が、掃除を言いつけました。でも、市之進は言うことを聞きません。松陰は紙を取り上げ、庭先に投げ

つけました。市之進は、それを拾って書き続けました。松陰はなぜ反抗するかと怒りました。市之進が反省しうなだれていると、松陰は言い聞かせたのです。

「お前は少年ながら才気を持っている。だから、私はお前と言う人間は共に道を学べる学べる人物だと思っている。何事にも屈することなく退くことがないところがあがるが、それこそお前の真心(真骨頭)だ。」

三、集団の中で育てる

松下村塾の塾生たちは集団の中で、師弟関係・友人関係を通して、学問し、志を確立し、志に生きようと覚悟しました。

松陰は「諸生に示す」で次のように言っています。

「学問が効果を上げるのは、まずはそこに学んでいる仲間の中で情意が互いに通じ合い、意気投合されることによる。集団がそのような雰囲気になるにつれて、成員の間に、次第に道理(人間としての正しい在り方)が明らかになってくるものだ。」

そして、望ましい集団として

・相交・相扶持・相労役
・親兄弟のように睦み合う集団
・自得したことは語る

何か一つでも自得したことがあれば、誰にでもよいから語れ。

・質疑応答しあう

書物はしっかりと読まなくてはならないが、書物にかかれていくことは過去のもの、今実行することの間にずれがある。人には悟ることが早い者と遅い者とがいて、遅い者が早い者に聞くのはあたりまえのことである。

今、吉田松陰を学ぶことは、肝のすわった教育を創造していく上で有効であると、講演を聴きながら改めて知った。

(文責 山口支部 田中淳夫)



山口大会を終えて

四期 社会系

山口支部 石川芳己

第24回全国大会を山口支部で引き受けることになり、平成15年8月松江市での島根大会には山口県支部から田中淳夫会長（当時）以下5名が参加した。

全国大会の運営方法なども参考にさせていただき山口大会を成功させたことの熱い思いもあった。

山口大会に向けては、田中会長を中心に実行委員会体制をとり、県内各地の役員が何回も会合を重ね準備を進めた。併せて、年賀状や手紙や電話など様々な方法で県内や全国の同窓会員に山口大会参加を呼びかけた。また、この機会を捉えて県内80名の支部会員の結束を図るように努めた。会場は下関市、山口市等を検討したが結局、県都山口市に落ち着き早々にセントコア山

口を予約した。山口県支部としては、創立20周年を記念してこの大会を契機として記念誌

『20年の歩み』を編集した。これも、編集の過程で、支部会員の連帯意識を高め、山口大会を成功に導くための一方策でもあった。

大会当日は、兵庫教育大学の中刈正堯学長や山口県教育委員会の藤井俊彦教育長等の来賓をはじめ、吉田廣全国同窓会長等、県内外から多くの参加をいただいた。支部会員による研究発表や山口県教育会会長の河村太市先生による『松下村塾の教育』と題する講演が行われた。

湯田温泉での懇親会の後は、夏の風物詩「山口七夕ちようちん祭」に繰り出して山口の夏を存分に楽しんでいただいた。

今後は、本大会の成果を生かしながら、県支部会員の連帯意識を高め、会員相互による研鑽を深め力を合わせて、活力ある魅力的な同窓会をめざして積極的な活動を展開していきたい。

山口大会に参加して

大学院同窓会理事(広報部)

柿手宣昭

山口市は全国で一番人口の少ない県庁所在地だが、今なお歴史を色濃く残す美しい街である。第二十四回大会はこの山口市湯田温泉のセントコア山口で開催された。

山口県支部設立二十周年の節目に併せて、同窓会の全国大会を開催された。同時に記念誌「二十年の歩み」も発行され各教科の領域で多くの皆さんが研鑽を積み重ね指導的な立場で活躍されていることがうかがえた。

総会の冒頭、中刈正堯学長の祝辞では、法人化がスタートして四ヶ月の現状報告と中期目標・計画の中心的内容の一つである修士課程修了生と大学を繋ぐ教育実践ネットワークへの積極的参加と活用をお願いがあった。ネットを現場の課題を解決するために使う。最新の研究の動向を知る。大学の研究を現場に生かす。参考文献・資料を集める。：使い方は無限の可能性があ

る。H y o k y o n e t はすばらしい構想だと思う。

続いての大会記念講演では、山口県教育会会長の河村太市氏が「松下村塾の教育」と題して話をされた。河村氏の今までの研究成果をふまえ松陰の文稿を読まれ、松陰を理解するためのキーワードとして人間観・人生観・学問観をあげられ分かりやすく解説された。松陰の教育が、個別教育において優れた特質を持っていたこと。また松陰は集団教育の優れた指導者であったことなど大いに刺激され、今の自分の教育実践に生かせるという確信を得た。大会最後のイベントは懇親会である。ちようど七日は「山口七夕ちようちん祭」が開催されており、市内の中心商店街に数万個のちようちんが飾られ、ろうそくに火がともされ、迎いは幻想的な赤い光に包まれ山口市の夏を彩っていた。

大学情報

大学施設紹介

「兵庫教育大学学校教育研究センター」

〒673-1421 兵庫県加東郡社町
山国2007-109, TEL0795-
40-2201, FAX0795-40-
203, <http://www.ceser.hyogo-u.ac.jp>

◆学校教育研究センターは、学校教育の実践に関する情報を収集・分析し、新しいメディアを利用した教育方法を研究し、実地教育を支援するための教育・研究を推進すること等を通して、新しい教員の専門的な資質・能力の在り方並びにその養成・研修の在り方を総合的・統合的に探究することを目的とし設置された学内共同教育研究利用施設である。◆同センターは教育現場と大学を結び結節点となるように山国地区の附属学校・園に隣接設置され、学内的には、学部、大学院、各センター、附属学校園などの全てに開かれている。学外的には、教員養成と教員研修すなわち教師教育を目的にし、学校現場における全ての教育実践研究のために開かれている。◆教職員は、現在、

センター長及び専任研究者(9名)、客員研究員(3名、その内1名は外国人)、多数の兼任教員と協力教員及び事務室長及び専任事務員(2名)である。◆研究部門は、「学校問題解決研究部門」(学習課題開発分野、子ども発達促進分野)、「情報メディア教育研究部門」(教授学習システム分野、情報メディア環境分野、コミュニケーション科学分野)そして「実地教育支援研究部門」(教師発達支援分野、授業実践力開発分野)の3部門7分野から構成されている。◆以下の実施事業紹介は、センターの平成15年度の実施事業の一部を「センター概要」から抽出したものである。①地域の学校・社会への支援事業*公開講座の開設、大学連携ひょうご講座への学外科目開設。*西脇市国際親善交流協会主催「異文化理解講座」担当*兵庫県立教育研修所と共催の「夏季オープン講座」担当*兵庫教育大学スクールパートナーシップ事業への講師派遣*県内地域の教育研究所・学校等への研修講師派遣*地域小学校英語教育支援*地域小学校不登校生の援助支援等②教育実践研究の推進事業*兵庫教育大学学校教育学

会への支援・推進*兵庫教育大学教育実践ネットワークを利用した教育実践研究の企画・推進等③プロジェクト研究事業*各部門のプロジェクト研究成果発表*特別講演会「『生きる力』を育てる教師の資質能力とは何か―自ら学ぶ学習主体を育てる実践的指導力を磨く―」大阪市立大学豊田ひさき氏、「インターネットで科学を楽しく学ぶハワイの生徒」ハワイ大学ジョンサウスワース氏等④附属学校園との連携の推進・支援事業*附属学校園長及び教員が協力教員として各部門に参画⑤学校教育改善事業*兵庫教育大学フレンドシップ事業研究協議会開催「事前指導・社会教育施設と連携した観察参加実習の成果と課題」東京学芸大学坂井裕氏他⑥施設・設備の利用サービス事業*「学校なんでも相談室」の開設*地域交流のための利用施設の開設や「資料検索調査室」の設置⑦刊行事業*「学校教育研究センター年報」*「学校教育学研究」*実地教育指導資料及び実習記録*兵庫教育大学修士論文概要データベースの作成。(2004年度学校教育研究センター概要より) (文責 助教授 上西一郎)

編集後記

第24回兵庫教育大学大学院同窓会山口大会が平成16年8月7日に盛大に開催され、大学から中渕正堯学長・田中亨胤教授をお迎えすることができました。大学との結び付きを確認するとともに、大学の法人化に向けての取り組みの苦勞と努力が伝わってきました。

今回の会報は、このような時代の流れを大切にし、しかも不易を生かした取り組みもされている山口支部の作成された「20年の歩み」は、同窓生に一石を投じたものになりました。おかげさまで、本冊子を参考に編集することができました。

ところで、平成16年度は、12月1日から、梶田徹一学長に変わりました。ホームページ学長挨拶のなかの「内面性の教育」の提唱は、教育実践学をめざす現職教員にとって、これからの研究の視点を示していただきました。

同窓会会員の皆様、今後も価値の高いものを示すことができるよう、教育の在り方を問い続けましょう。

(広島支部広報部)

支 部 活 動 紹 介

広島支部（もみじ会）の活動の経緯

大学院同窓会活動の起こりは、昭和59年（1984年）4月、当時副学長の上寺久雄先生の助言により規約原案作成にある。ちょうど多くの5期生が大学院に派遣された年度である。1年間協議のうえ、昭和60年（1985年）4月25日に「もみじ会規約」を制定した。そして、平成16年（2004年）は20年目を迎える年度になった。あっという間に20年がたった感じがする。現在、修了生は各職場の責任ある立場で活躍している。また、県教委からの経費で様々な研修をさせていただいたことに、修了生は日夜、恩返しの気持ちで実践を積んでいることを、個人としても嬉しく思っている。

平成16年は、本大学院への派遣が無しとなってしまった。時代の流れの中で、しかたないことであるが、少しさみしく感じている。修了生の何人かは、すでに退職をされた方もあり、会員が現状のままか減るかであり、これからの運営の方法や新しい考えをどのように生かしていくかが課題となりそうである。一つの節目を迎えたこともあり、今までの総会における講演等の概要を一覧表とし、紹介に変えたい。

（文責 副会長 山下 裕）

兵庫教育大学大学院同窓会広島支部（もみじ会）の活動の経緯

期日	総会会場	会員	総 会	講 演 講 師 等
S60(1985)8.17	せとうち苑	39	1	上寺久雄副学長「新教育大学の構想」
S63(1988)12.29	八丁堀シャンテ	84	2	上寺久雄学長「兵庫教育大学のあゆみ」
H1(1989)12.29	八丁堀シャンテ	96	3	上寺久雄学長「これからの兵庫教育大学」
H2(1990)12.29	広島セントラルホテル	108	4	上寺久雄学長「今後の教育大学の方向」
H3(1991)12.29	広島セントラルホテル	120	5	上寺久雄学長「現代の教育に求められるもの」
H4(1992)12.29	広島セントラルホテル	132	6	上寺久雄学長「教育者としての思い出」
H5(1993)12.29	広島セントラルホテル	142	7	岩田一彦教授「新しい学力観を生かした学習指導」
H6(1994)12.29	広島セントラルホテル	157	8	長谷川孝士教授「広島における正岡子規」
H7(1995)12.29	広島セントラルホテル	173	9	村上孝治1期生「兵教大と私の歩み」
H8(1996)12.29	広島セントラルホテル	189	10	岩田一彦教授「生きる力を育てるための授業開発」
H9(1997)12.29	広島セントラルホテル	200	11	三浦義行3期生「博士課程の現状」 岩田一彦教授「基礎基本をふまえ、自ら学ぶ授業の展開」
H10(1998)12.29	広島セントラルホテル	207	12	岩田一彦教授「新教育課程と21世紀の教育」
H11(1999)12.29	広島セントラルホテル	210	13	岩田一彦教授「総合的な学習とこれからの教育」
H12(2000)12.29	広島セントラルホテル	211	14	岩田一彦教授「総合的な学習で育成する認識内容と能力」
H13(2001)8.18 ～8.19 H13(2001)12.29	ホテルセンチュリー 21広島・市内巡検 広島セントラルホテル	213	15	同窓会広島大会(8/18～8/19) 今西和男サンフレ総監督「選手づくり・人づくり」 岩田一彦教授「新しい市民的資質形成をめぐる諸問題」
H14(2002)12.29	広島セントラルホテル	215	16	岩田一彦教授「教育改革の方向性について」 ～先進的な外国の事例を通して～
H15(2003)12.29	広島セントラルホテル	216	17	岩田一彦教授「教育改革の方向性について」 ～中央教育審議会や外国の方向を踏まえて～
H16(2004)12.29	広島セントラルホテル	216	18	岩田一彦教授「教育改革の現状と課題」

第24回兵庫教育大学大学院同窓会・山口大会



第24回 兵庫教育大学大学院同窓会全国大会（山口大会） 平成16年8月7日 於 セントコア山口



▲懇親会



▲総会

来年度は
京都大会で
集おう

期日：平成17年8月6日(土)
～7日(日)

会場：ホテルルビノ京都堀川

山口巡検
山口七夕ちようちん祭

